

# 今月の安全運転管理

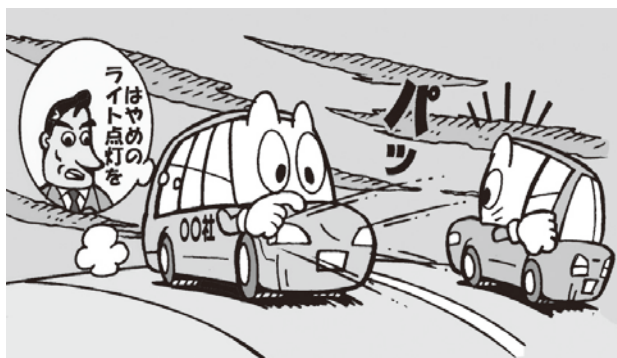
## 夜間 早めのライト点灯が 命を守る

### ①17時～19時の事故防止を推進する

- 早めのライト点灯を徹底させる
- ハイビームの活用を指導する

### ②退勤時の事故防止を推進する

- 退勤時に安全運転を呼び掛ける



#### 早めのライト点灯徹底を呼び掛ける

薄暗くなる夕暮れ時は、視認性が低下し人や車の動きが見えにくくなるため、交通事故が多発します。日の入りが早くなるこの時期はとくに注意する必要があります。

愛知県警によると、平成二十九年～令和三年の五年間で十月中の交通事故死者数は七十三人でした。うち、魔の時間帯(午後五時から午後七時)は、二十人で突出しています。

視界が悪化する夜間の運転では、危険をいち早く発見することが大切です。県警では「夕暮れ時の前照灯早め点灯運動」を実施しており、十月中は午後四時三十分でのライト点灯を呼び掛けています。

この運動に呼应して、早めのライト点灯を徹底するよう

う指導しましょう。

また、従業員の家族に対しても、車から発見されやすいよう夜間の外出時には、明るい服装や反射材の着用を促しましょう。

#### ハイビームの活用を指導する

ロービームが照射できるのは四〇m先なのに対して、ハイビームは一〇〇m先まで光が届くため、歩行者等の危険をより早く発見できます。夜間の交通事故防止にはハイビームを適切に使用することが大切です。

夜間に運転するときは、ハイビームを基本とするよう指導しましょう。

しかし、近年ヘッドライトの光が明るくなってきており、視認性が向上した反面、他者(車)にとっては眩しくなり眩惑等の危険もあります。

街灯などで明るい都市部

を走行するときや対向車がいるとき、前車に追従しているときには、ロービームにするなど、こまめに切り替えることを習慣づけるよう指導しましょう。

#### 退勤時の安全運転指導を実施しよう

退勤時は疲労や安堵感から、運転への緊張感が薄れがちです。また、退勤後に約束がある場合は「急ぎの心理」に陥ることも考えられます。そのような状態で運転すると事故の危険が高まります。

そこで、退勤する従業員に対して安全運転を呼び掛ける活動を実施しましょう。

管理者や上司が帰路に近く従業員に対して「スピードを控えて運転してください」「信号は必ず守りましょう」など一声掛けるだけでも、安全運転の意識づけに繋がる事が期待できます。